独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

機構ニュース

Vol.230 2022 August

今月の記事

Top News

○ NIC-Japanセミナーシリーズ「台湾の教育制度・高等教育資格」を開催 ・・・・・・・・1

質保証連携

○ 令和４年度大学質保証フォーラム　参加登録 を受付中 ・・・・・・・・2

調査研究

○ 研究開発部教員紹介 ・・・・・・・・3

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

○ 機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧について ・・・・・・・・5

評価事業

大学機関別認証評価等について

○ 「大学機関別認証評価等に関する説明会」及び「令和５年度に実施する大学機関別認証評価等に関する自己評価担当者等に対する研修会」の開催 ・・・・・・・・6

主要行事日程

○ Schedule（8月～10月） ・・・・・・・・7

TOP NEWS

○　NIC-Japan セミナーシリーズ「台湾の教育制度・高等教育資格」を開催

当機構の高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）では、学生や研究者の国際的なモビリティ向上を目的とした高等教育資格の円滑な承認に資する情報提供活動の一環として、海外の教育制度や資格審査の事例など、資格承認にまつわる諸テーマについて国内外の有識者よりお話しいただく「NIC-Japanセミナーシリーズ」を昨年度より開催しています。

今回は令和４年度の第１弾として、７月 11 日（月）に「台湾の教育制度・高等教育資格」をテーマとし、講師に高等教育や大学国際化、質保証等の専門家である台湾國立暨南國際大學の楊 武勳教授をお招きしてオンラインで開催しました。当日は大学等で国際業務に携わる教職員を中心に 130 名を超える参加がありました。

はじめにNIC-Japanの森利枝センター長から講師への謝意とセミナーに対する期待が示されました。講演では、台湾の教育制度の概要をはじめ、高等教育への進学のための入試制度における試験の種類や、選考材料の一つとして用いられる生徒の学習歴を蓄積したシステム「E-Portfolio」等について詳細な説明がありました。そのほかにも、大学評価制度や大学の国際化、海外での学習歴の承認など、多岐に渡る内容について包括的に紹介されました。

講演後には熱心な質疑応答が交わされ、最後にモデレーターを務めたNIC-Japanの堀田泰司シニアアドバイザーから講師に対して、示唆に富む講演と丁寧な質疑応答に対する感謝が述べられ、盛会のうちに終了しました。

なお、今回のセミナーシリーズで使用した資料は、NIC-Japanのウェブサイトからダウンロードすることができます。

（左）講師の楊武勳氏　（右）楊氏とモデレーターの堀田シニアアドバイザー

質保証連携

○ 令和４年度大学質保証フォーラム　参加登録を受付中

当機構では、大学等の質保証に携わる人材の育成を図り、日本の高等教育に質保証文化を定着させることを目的として、毎年「大学質保証フォーラム」を開催しています。今年度は、「大学内外の学びの接続を考える―多様な学習が生きる社会へ―」をテーマに、令和４年９月２８日（水）の午後にオンラインで開催します。（日英韓同時通訳付、参加無料）

高等教育は、修業年限、そしてキャンパスや教室という時空的制約を前提としてその質保証を問題としてきましたが、少子高齢化やポストコロナ・ニューノーマル社会の出現によって、その制約の自明性は失われつつあります。また、日本を含む各国では、すでに生涯学習における高等教育の役割が拡大を始めており、就業経験、入学前学習、細分化された学習履歴（マイクロクレデンシャル）などの大学外での学習経験や、大学内であっても授業以外の様々な活動を認定するための取組が試みられています。これらの取組は、高等教育の社会的意義の再考を促すだけでなく、その質保証に関して新たな視座を求めるものです。

当日は、国内外の有識者を招き、大学内外における学びの接続と継続のあり方について理解を深め、今後の日本の高等教育とその質保証の姿を議論する機会といたします。

本フォーラムの詳細および参加登録フォーム（事前登録必須）は下記のウェブページに掲載しています。ぜひご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

大学質保証フォーラム開催案内掲載ページ：
https://www.niad.ac.jp/consolidation/international/forum/

（当日プログラム）
１３：３０　開会
１３：３５　講演①　Terry Neal 氏
（ニュージーランド資格機構（NZQA）チーフ・アドバイザー・ポリシー）
１４：００　講演②　朴　仁鍾 氏
（韓国高麗大学校教育大学院兼任教授、前国家平生教育振興院学点銀行本部長）
１４：２５　講演③　Mohamad Afzhan Khan 氏
（オープン・ユニバーシティ・マレーシア 入学前経験学習認定センターディレクター）
１４：５０　講演④　岩永　雅也 氏（放送大学長）
１５：２５　パネルディスカッション
１６：００　閉会

調査研究

○ 研究開発部教員紹介

鈴木利哉　研究開発部教授

昨年２月に着任しました。私は 1983 年に東京医科歯科大学医学部を卒業してから、血液学の診療と研究に従事してきました。奈良信雄・東京医科歯科大学講師（当時）のもとで白血病幹細胞の研究をスタートしました。奈良先生は令和３年３月まで本機構研究開発部特任教授を務めておられました。私は研究の幅を広げるために分子生物学の手法を学びたく、東京大学医学部第 1 生化学教室（村松正實教授）に内地留学しました。研究は楽しく、毎日終電過ぎまで実験に没頭し、歩いて自宅に帰った日々を懐かしく思い出します。

機会を得て米国シティーオブホープ国立医学センター（Kevin Scanlon 博士）、アラバマ州立大学バーミングハム校（David Curiel 博士）、ピッツバーグ大学（Joseph Glorioso 博士）のもとで遺伝子治療を学びました。アデノウイルスベクターにリボザイムという RNA を切断する遺伝子を組み込んで乳癌遺伝子 HER-2 を破壊して乳癌を治療するという動物モデルに取組みました。真っ青な明るい日差しのもとでのびのびと研究した日々を懐かしく思い出します。家族も米国生活を楽しんでくれたので充実した日々を過ごすことができました。さらに複製欠損型ヘルペスウイルスベクターを用いて血液腫瘍を治療するモデルにも取り組みました。

帰国してからは埼玉医科大学の血液内科医師として多忙な毎日を過ごしました。その後、日本赤十字社医療センター血液内科にいたある日、懐かしい声の方からお電話をいただきました。東京医科歯科大学で研究を始めたときの指導者、奈良信雄教授・東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長からでした。「一緒に医学生の教育に携わりませんか？」というお誘いでした。

そのときから医学教育の世界に飛び込んで医学生の教育に取り組んでまいりました。しばらくして奈良先生が中心となって医学教育分野別評価をわが国で初めて行うことになりました。高等教育の質保証は、本機構にとって極めて重要な責務でありますが、医学部にいた私にとっては、医学教育の質保証という話は全く未知の話でした。医学教育でにわかに質保証を開始しなくてはならなくなったのは、2010 年に米国 ECFMG(Educational Commission for Foreign Medical Graduates：外国人医学卒業生教育委員会)から世界中の医学部に対して 2023 年までに WFME（World Federation for Medical Education：世界医学教育連盟）の認証を受けた機関が国際基準に基づいて医学教育分野別評価を行い、認定した医学部の卒業生に対してのみ米国で臨床医として働くことを認める証明書を発行するという通告があったためです。「黒船問題」と言われたこの通告を受けて、わが国で初めての医学教育分野別評価トライアル

が始まりました。文部科学省の GP 事業としてスタートしました。当時私が在籍していた新潟大学医学部長髙橋　姿教授は新潟大学がわが国で一番最初に分野別評価を受審すると手を挙げられたので、海外の情報（欧米、台湾、韓国）や東京女子医科大学で行われた WFME プレトライアル分野別評価の情報を参考にして準備を重ねました。2013 年 12 月に医学教育分野別評価トライアルを受審したときのことを昨日のように思い出します。初めての受審は分からないことが大変多くて準備は困難を極めましたが、終了して大きな仕事を成し遂げた達成感がありました。新潟大学医学部では受審のために作成した自己点検評価報告書を全国 80 医学部に配り、各医学部から受審の参考になると大変喜ばれました。文部科学省 GP トライアルの後、医学教育分野別評価を行う機関として日本医学教育評価機構（JACME）が 2015 年 12 月 1 日に設立されました。WFME により医学教育分野別評価の現地調査が行われ、2017 年 3 月 18 日に JACME は医学教育分野別評価を行う機関として正式に認証されました。2023 年度までに全国 82 医学部（東北医科薬科大学医学部と国際医療福祉大学医学部が新たに加わりました）すべてが受審する予定が組まれています。JACME では奈良先生が常勤理事として統轄されています。私も広報委員等として支援をしております。

昨年 2 月、私は本機構に勤めることになり、学位授与事業に関わらせていただくことになりました。一番戸惑ったのは「学修成果」の存在です。医学教育分野別評価では、医学部がそれぞれ自分の医学部ではこのような能力を持った医師を養成するという大きな目標を立てて宣言し、それを「学修成果」と呼ぶのに対して、本機構ではひとりひとりの学位申請者が作成し、本機構に提出するレポートを「学修成果」と呼ぶのです。最初は大いに戸惑いましたが、各専門委員会の委員がこのようなレポートを提出する者には４年間の大学を卒業した者と同等の学力があると判断し、学士の学位を与えようという強い思いを込めたお考えで合否を判断しておられることを学びました。本機構と医学部では文字面は同じ「学修成果」ではあるけれども、意味の違いこそあるものの、どちらも極めて重要なものであることを学びました。私はこれからも学位授与事業および関連研究のために大いに貢献してゆきたいと考えております。

中原一彦先生の後任として本機構の産業医を兼務しております。何かお困りのことがございましたら、どうぞお気軽に声をおかけください。どうぞよろしくお願いいたします。

すずき　としや　博士（医学）（埼玉医科大学）
令和３年１月まで　新潟大学
大学院医歯学総合研究科
医学教育学分野 教授
令和３年２月から　本機構研究開発部教授

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

○ 機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧について

・令和４年度版を当機構ウェブサイトに掲載

当機構では、短期大学や高等専門学校を卒業、あるいは一定の要件を満たす専修学校専門課程を修了するなど、既に高等教育機関において一定の学習を修めた後に、さらに大学の科目等履修生制度などを利用して高等教育レベルの学修を積み上げた方に対して、審査を行った上で学士の学位を授与しています。

また、その学士の学位取得に必要な高等教育レベルの学習機会を拡大するために、短期大学や高等専門学校に置かれた専攻科のうち機構が定める要件を満たすものについては、当該専攻科において修得した単位が、大学の科目等履修生制度などを利用して修得する単位と同等のものとして使用することができる専攻科として認定しています（認定専攻科）。

本年度においても例年同様、認定専攻科において単位を修得しようとする方の参考としていただくため、短期大学や高等専門学校の認定専攻科の令和５年度入学者に関する学生募集の概要等を取りまとめ、当機構のウェブサイトで公表しましたのでご利用ください。

評価事業

■大学機関別認証評価について

○ 「大学機関別認証評価等に関する説明会」及び「令和５年度に実施する大学機関別認証評価等に関する自己評価担当者等に対する研修会」の開催

国・公・私立大学の自己評価担当者等を対象として、当機構が実施する大学機関別認証評価等の趣旨・目的、実施方法等についての説明会、及び令和５年度に当機構の評価を希望する国・公・私立大学の自己評価担当者等を対象とした自己評価書の作成方法等についての研修会を実施しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面方式では開催せず、６月 29 日（水）から７月 14 日（木）の期間において、クラウド上で音声解説付き資料をご覧いただく形で開催いたしました。

※上記の説明会及び研修会の配付資料については、当機構のウェブサイトに掲載しています。
https://www.niad.ac.jp/evaluation/certification_evaluation/ce_university/daigaku_kanren/entry-4743.html

主要行事日程

○ Schedule

8月

日	行事名	担当課
19 日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第２回）	評価支援課
22 日	学位審査会（令和４年度第２回）	学位審査課
29 日	大学ポートレート運営会議（第 17 回）	評価企画課

9月

日	行事名	担当課
９日	学位取得者表彰式	学位審査課
10 日～ 10 月４日	令和４年度 10 月期学位授与申請（データ入力）受付期間	学位審査課
22 日～ 10 月４日	令和４年度 10 月期学位授与申請（書類送付）受付期間	学位審査課
28 日	令和４年度大学質保証フォーラム	国際課

10月

日	行事名	担当課
４日	法科大学院認証評価委員会（第２回）	評価支援課
中旬	高等専門学校機関別認証評価委員会（第３回）	評価支援課

独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education